

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 235人 国語B 235人

② 数学A 235人 数学B 235人

5 留意事項

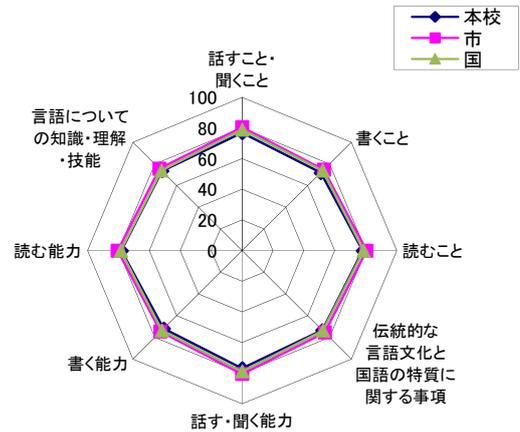
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

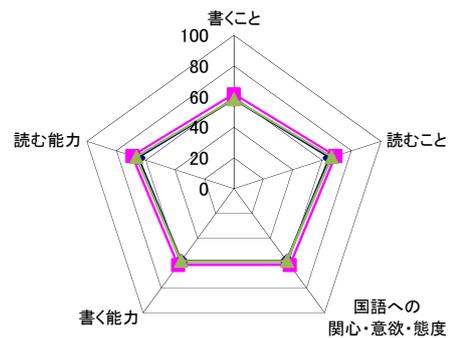
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.8	80.5	78.9
	書くこと	71.9	74.7	73.7
	読むこと	78.1	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	76.8	80.5	78.9
	書く能力	71.9	74.7	73.7
	読む能力	78.1	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	73.4	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	58.2	61.6	58.3
	読むこと	65.2	69.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	58.2	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	58.2	61.6	58.3
	読む能力	65.2	69.1	66.5
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

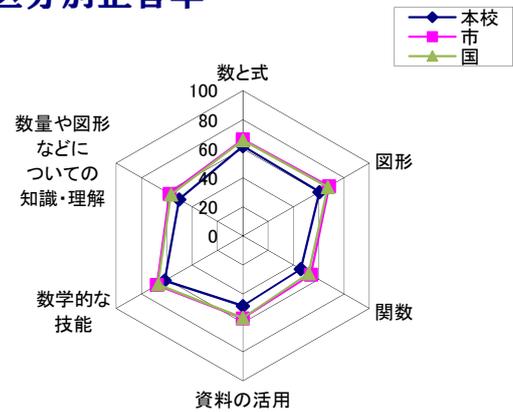
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○全体と部分との関係に注意して話を構成したり、互いの発言を検討して自分の考えを広げたりする点では、正答率が全国を上回っている。また、選択問題の無回答率は、ほぼ0%で全国、県よりも低い。 ●記述問題の無回答率が、全国や県に比べて高い。	○昨年度に比べ、全国や県との差が縮まっている。さらに、適切な聞き方、話し方を選択するだけでなく、自分で考えて適切に使えるよう、授業で機会を設けていきたい。
書くこと	○A: 集めた材料を整理して文章を構成する点では、正答率が全国や県を上回り、無回答率も0%である。また、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く点では、正答率が県を上回っている。 ●B: 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える設問の正答率が全国や県を大きく上回っている。 ●A: 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くという点、B: 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く点では、全国、県を大きく下回っている。(この設問は、書くことと重複している。)	○昨年度に比べ、全国や県との差が縮まっている。さらに、選択するだけでなく、自分の言葉で記述できるよう、授業で機会を増やしていきたい。
読むこと	○A: 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解したり、奥付の特徴や役割を理解したりする点では、正答率が全国や県を上回っている。B: 1設問を除き全国や県と正答率は同様である。 ●A: 文章の構成や展開について自分の考えを持ちたり、奥付を使って本の情報を得たりする点において、全国や県同様正答率が非常に低い。B: 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く点では、全国、県を大きく下回っている。	○全国や県との差は昨年度と同様である。すべて選択問題であり、正答率も高めである。今後は文章の構成や展開について自分の考えを持ちながら読む場を増やしたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○半数以上の設問で、正答率が全国や県を上回っている。 ●「研究」「植える」などの簡単な漢字を書けない生徒の割合が、全国や県よりも多い。9六の正答率が低いが、選択肢がわかりづらかったか、二つ選ぶのを間違ったかと考えられる。	○昨年度に比べ、全国や県との差がかなり縮まっている。さらに、普段からこまめに漢字や語彙を身に付ける機会を増やしたい。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

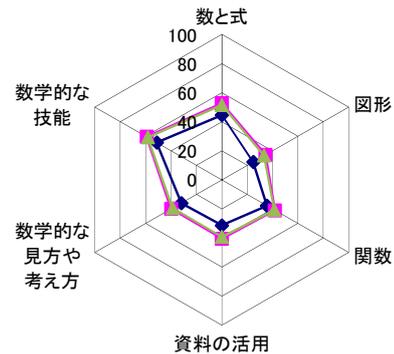
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	61.8	66.4	65.9
	図形	60.5	68.1	67.1
	関数	45.7	53.7	52.0
	資料の活用	48.3	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	61.7	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	50.3	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	44.6	52.7	51.5
	図形	24.7	34.5	33.3
	関数	35.5	41.9	41.4
	資料の活用	31.3	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	32.0	39.9	38.9
	数学的な技能	51.3	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○分数、小数の計算や、正の数、負の数の計算に関しては概ね理解できている。 ●文字式や方程式に関しては正答率が低い。	昨年度に比べ、全国や県との差が縮まっている。文字式や方程式など文字を使った計算を苦手とする生徒が多いため、反復学習でドリル形式の計算練習を授業の中で行っていきたい。
図形	○作図に関しては概ね理解できている。 ●図形全般、正答率が低い。特に記号を用いて表すことに関しては無回答率が高い。	全国や県との差は昨年と同様である。視覚的教材を授業の中で積極的に活用し、図形の見方や考え方を理解させていきたい。
関数	○比例、反比例に関して、また一次関数に関しては正答率が比較的高い ●他の分野に比べて正答率が低い。特に増加量を求める問題、変化の割合を求める問題に関しては無回答率が高い。	全国や県との差は昨年度と同様である。増加量や変化の割合など、その意味を理解できていない問題に手につかない生徒が多い。再度、反復学習を行い、知識の定着を図っていきたい。
資料の活用	○確率に関しては正答率が高い ●最頻値を求める問題や近似値との誤差を求める問題の正答率が低い。	全国や県との差は昨年度と同様である。最頻値や近似値など、その意味を理解できていない生徒が多い。基本的な語句の意味やその求め方など、再度確認させていきたい。身近な話題を題材として授業を行い、かつ正確な知識を身に付けさせていきたい。

宇都宮市立若松原中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1・2年生の時の授業で、生徒間での話し合い活動において、内容を理解し、相手の話を理解し、自分の考えをしっかりと伝えられたか」との質問に対して、肯定的に回答している生徒が全国平均・栃木県平均を上回っている。各教科においてペア学習やグループ学習の機会を増やすことで、充実した話し合い活動の仕方を身に付けることができたと思われる。今後も、授業の中にペア・グループ学習を取り入れていきたい。

○「1・2年生の時の授業で、自分の考えを発表する時に自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫したと思うか」との質問に肯定的に回答している生徒が全国平均・栃木県平均を大きく上回っている。各種行事の事後まとめなどの学習を通してまとめる力が身についてきたと思われる。

○「読書は好きですか」との問いに肯定的な回答をしている生徒が全国平均・栃木県平均を上回っている。これまでの「朝の読書」活動によって読書に親しむ生徒が増えてきたと思われる。また、休み時間等にも読書をする生徒の姿も見られる。

●「地域の行事やボランティア活動に参加しているか」との質問に対する肯定的回答が全国平均・栃木県平均を下回っている。日々の生活の忙しさの中で、なかなか参加できないと思われる。今後は、休日の地域行事への参加を呼びかけていきたい。

●「家で学校の宿題をしていますか。」という質問に対して肯定的回答の割合が全国平均・栃木県平均よりも低い。また、予習・復習への取り組みについても同様の傾向がみられる。今後、家庭学習への計画的な取り組みについて伝え、自主学習ノートの活用の推進をしていきたい。